



## おっきこう 隠っ岐行



4年ぶりに復活した東海地区から隠岐への旅行が8月1日～3日に行われ、島根県人会やご家族、友人の皆さま39名が参加し隠岐の旅を楽しみました。その模様を報告いたします。

8月1日(火)。猛暑にも負けず、参加された皆さまは全員元気でそれぞれの出発場所に集合し定刻の8時に栄の久屋中日ビル前を伊丹空港へ向けて出発。予定通り11時に到着しました。ここで伊丹集合の4名の皆さまと合流し、8月1日から1ヶ月限定で隠岐空港と結ぶ JAL の大型ジェットで隠岐へ向けてフライト。僅か50分で到着しました。強い日差しは名古屋と変わらないなと思いつつながらタラップを降りると、空港では『東海島根県人会の皆様 ようこそ隠岐の島へ』の横断幕とともに隠岐民謡のしげさ踊りやしまねっこによる盛大な歓迎を受け、一同思いがけないサプライズに暑さを忘れて感動し、盛んにその様子をカメラに収めました。



しげさ踊りとしまねっこの歓迎



【樹齢2000年の八百杉を見上げる(玉若酢命神社)】

その感動も冷めやらぬうちに待ち受けた観光バスで最初の目的地玉若酢命神社へと向いました。ここでは樹齢2000年とも言われる八百杉に圧倒されたあと神社へ参拝。玉のように吹き出る汗を拭きながら全員で記念撮影を行い、億岐家の重要文化財を拝見して最初の見学を終えました。一旦ホテルでチェックインし小休憩を挟んで第二の目的地、水若酢神社へと向い、古典相撲が執り行われる土俵を見学した後、隠岐造りの水若酢神社を参拝。五箇創生館では隠岐の自然や古典相撲、牛突きに代表される郷土の伝統行事をビデオで鑑賞しより隠岐への理解を深めました。



【古典相撲が行われる土俵(水若酢神社)】



【隠岐造りの水若酢神社】

そうして、初日の最終目的地はローソク島です。台風6号の影響で天候や高波を心配しましたが、全くその心配がなく穏やかな波の上を観光船が進みスポットに到着。船長さんの巧みな舵さばきで、ローソク島の芯と夕日が見事に重なり合うシーンを何度となく再現していただき、皆さんもシャッターチャンス逃すことなく満足のいく見学ができたようでした。主催する側として、天候に左右されるこのローソク島の見学ができると隠岐旅行の目的の半分は達成できたような気分になりますが、それは言い過ぎでしょうか？天候とともに企画運営いただいた隠岐の島の皆さまに感謝で一杯の気持ちになりました。



【天候に恵まれたローソク島めぐり】

ローソク島の見学を終えてホテルに帰着したころはすっかりお腹もすいてここからは、待ち望んだ夕食と宴会です。隠岐の島町役場の大庭副町長はじめ商工観光課の皆さんも参加され、副町長の歓迎のご挨拶、島根県人会の原副会長の乾杯の発声で宴会が賑やかに始まりました。新鮮な海の幸に舌鼓を打つ中、役場の皆さまによる抽選会や顔一杯に髭を描いた皆さんによるキンニャモニャ踊りが披露されサプライズに皆さんは大喜び。私たちも促されて鍋蓋を両手に飛び入り参加し見よう見まねながら一体感をもって楽しく踊ることが出来ました。



【盛り上がった抽選会】



【飛び入り歓迎、キンニャモニャ踊り】

こうして初日は天候に恵まれ、隠岐の島町の皆さまの心あたたまる歓迎とおもてなしの余韻に浸りながら終わりました。

そして2日目もサプライズで始まりました。西郷港から出港するフェリー“しらしま”に乗り込みましたが、埠頭をふと見ると出張で来られた大阪事務所の河野所長となごや情報センターの中道所長の姿があるではありませんか。お見送りに来られたのですがそれだけではありません。なんとテープの束が用意されていました。それを聞いた私たちはデッキに集まりひとりひとりテープを握り、感謝の気持ちを込めて思いっきり手を振って別れを告げました。テレビや映画で見たことのあるシーンを体験でき



【テープでお別れ(西郷港)】



【お見送り、ありがとう!!】

た喜びに浸った後フェリーは今日も穏やかな波間を最初の目的地、西ノ島の別府港へと進みました。西ノ島町では観光バスで赤尾展望台、摩天崖、そして国賀海岸を巡り、荒波に削られた断崖絶壁や美しい緑と紺碧の日本海のコントラストといった大自然を楽しむことが出来ました。暑い中、時間が少々押ししていたので、急いで



【たどり着いたら絶景でした、通天橋】



【赤尾展望所で記念撮影】

もらったことと最後の国賀浜海岸では急な坂道のため、全員が通天橋までたどり着けなかったことが心残りでした。それとお馬さんに会えなかったことと。

こうして西ノ島で大自然を堪能した後は、海士町の中ノ島に渡り歴史とのふれあいです。ここでは承久の乱に敗れてこの島に配流されて生涯を終えた後鳥羽上皇にまつわる史跡を見学し崩御700年に建立された隠岐神社を参拝しました。その後訪れた後鳥羽院資料館では展示品を通じて非情な歴史を垣間見るとともにいかに後鳥羽上皇が島の人々に大切にされていたかということを感じ取ることが出来ました。このあと再び西ノ島に戻り、別府港からフェリーで夕日を背に受けながら西郷港へと向かい島前二島の旅を終えました。



【隠岐神社を参拝】

そして二日目の夕食はしげさ節に代表される隠岐民謡を隠岐民謡会の皆さまの美しい歌声と踊りを楽しみながらの食事で大いに盛り上がり、「アンコール」「アンコール」の大合唱。その声に応じて何曲も番外で披露くださった民謡会の皆さまに感謝します。本当にありがとうございました。



【隠岐民謡会のみなさん】



【熱心に舞台に見入るみなさん】

そしていよいよ最終日。まずはモーモードームで隠岐の代表的な伝統行事、牛突(づ)きの見学です。観光用と分かっていても、本気と思わせる迫力のある角の突き合いと綱取りの手綱さばきは見応えがありました。闘いを終えた牛さんと写真撮影をしたあとは隣の隠岐国分寺へ移動し、



【迫力満点の牛突き(モーモードーム)】

いる舞楽、蓮華会舞をビデオで鑑賞。後醍醐天皇の行在所を見学した後、本堂にお参りし最後の見学地隠岐自然館へと向いました。



【隠岐国分寺境内】



【隠岐国分寺に参拝】

ここでは隠岐の成り立ちや美しい海岸線や断崖絶壁、奇岩がなぜ出来たかその秘密がパネルで分かりやすく説明しており、美しい自然の景色を内面から見る事ができました。昼食をとったあと隠岐空港に向い、この日も大庭副町長はじめ大勢に役場の皆さまに見送られて隠岐へ別れを告げました。隠岐の島町の皆様、本当にありがとうございました。

こうして雄大な自然とふれあい歴史に学び、なにより人情の島隠岐の皆さまのおもてなしに感動した3日間の旅が終わりました。バスが無事栄に到着したとき、皆さまが笑顔だったことがとてもうれしく感謝の気持ちで一杯になりました。至らぬ案内人で数々の不手際でご迷惑をおかけしましたが、寛容な皆さまのおかげで無事終えることができました。参加された皆さまはじめ、隠岐旅行に携わられた全てに皆さまに感謝申し上げます。ありがとうございました。



【盛大なお見送りに感動再び】

(湯浅 勉 記)

2023.8.15